「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０２０年３月　第133号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

授業と〝実を結ぶ〟ということ

國學院大學北海道短期大学部　副学長　太田信二

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染予防のため、卒業式は残念ながら出来なくなりましたが、でも、皆さんが自身の夢の一つを実現したという事実は胸を張って誇りとすることができることです。今は、その達成感にもとづいて新たな夢を描いてください。

さて、卒業式の時期が近づいてくると、必ず思い出されることがあります。それは、ある年の卒業生と、10年ぶりくらいに同窓会で会ったときにその卒業生が「授業の時には、どういうことなのかわかりませんでしたが、ある時、あ、授業でのあのことばは、こういうことなんだとわかりました」といってくれたことです。

皆さんは、授業を通じて、たくさんのことを学んだはずです。そのなかには、もちろん速攻で役に立ったことばもたくさんあったはずです。でも、その時には、意味がわからなかったことばもたくさんあったはずです。むしろ、その方が多かったかと思います。

でも、それらのことばは、これからの皆さんの様々な経験の中で、育ち、実を結び、開花するはずのことばなのです。先の卒業生のことばは、まさに授業で話したことが、その卒業生に固有の仕方で開花したことを直接教えてくれたものでした。皆さんからも、こうしたことばを数多く聞くことができることを期待しつつ、送ることばとしたいと思います。

「卒業特集」未来へ力強く抱負

様々な人に支えられた2年間
両親の支えにも感謝

短大での2年間は、様々な人に支えられてきました。

卒業論文発表会で、私はゼミの代表として発表をしました。その際、ゼミの仲間に口頭原稿を添削してもらったり、先生の指導を仰いだりと、多くの助けを得ています。私が当初作成した口頭原稿は長くて聞きにくいものでした。内容も問題ありでした。それが、彼らの助言があって、発表会に出すに値するものに仕上がったのです。

また、私立大学の学費は、学生の私からしてみれば膨大な金額です。その面倒を見てくれた親にも感謝しなければなりません。私は空知出身で実家暮らし。2年間、短大に電車で通学しました。親の支援がなければ、私の学生生活は成り立っていません。アルバイトをするにあたっても、社会のルールやマナーを学びました。接客する上での言葉遣いから職場の人間関係についてまで、懇切丁寧に教えて頂いたことは、今後就職して自立する上で大きな価値が出てくると思います。仲良くしてくれた友人は心の支えでした。勉強や人間関係において、相談にのってくれた人もいました。

自分を成長させた就職活動
縁を大切に歩みたい

4月から社会人として、新千歳空港で働きます。一昨年、9月に発生した胆振東部地震がきっかけで新千歳空港で働きたいと考え、就職活動を行ってきました。この就職活動がいてこず、落ち込むことも多かったです。「最終面接」も、思うように話せずもどかしい思いをしました。そんな就職活動を支えてくださったのは、間違いなく友人や学校の先生、先輩方、職員の方々、そして家族です。面接に行く度、一人で落ち込んでは両親の存在を思い出しました。思えば受験の時も、いつも両親がすぐそばで支えてくれました。そこで初めて、私は家族が当たり前に側にいる環境に素直に感謝できました。

苦手な面接は短大部総出で支えてもらいました。内定を頂いた際はおめでとうと祝ってもらいました。人との出会いに心から感謝できた瞬間でした。「本当におめでとう」と沢山の方にかけて頂いたことは忘れていません。

皆さんとの出会いに感謝することで、私の中で社会人として働くことの覚悟ができた気がします。多くの成長があった2年間でした。これからもたくさんのご縁を大切に、人生を歩んでいきたいと思います。（国文学科2年／草薙優花）

滝川での生活は挑戦の連続
教師への夢一層強く

私にとって滝川での生活は挑戦の連続でした。全く知らない土地で初めて会う人達と関わるという経験は、自分の人生に必ず役に立つと感じています。

学内で挑戦し、印象深いのは、勉強とサークル活動でした。勉強は将来の自分づくりのために自ら行うもので、様々な取組の中で自分なりの学習方法を見つけることが大切だと思います。そして私は、学問の本質をこの中で社会人として働くことで、強く実感することができました。國學院大學に編入後もこれまで取り組んだ学習方法を参考により一層努力し続けたいと思います。

サークル活動では演劇部に所属して何度か大役を務めましたが、役に徹する難しさを実感しました。しかし、観客から称賛をいただくことで、演じることの充実感や達成感を大いに感じることができました。

また、学外で挑戦したアルバイトでは、失敗することもありましたが、仕事に慣れにつれお客様に「笑顔がいい」と言われることが増え、働くことのやりがいも実感することができました。さらに、児童教育コースならではの教育実習や小学校ボランティア活動で、子どもたちが熱中して勉強に取り組む姿や、楽しそうに話しかけてくる子どもたちの姿を見て、将来は教師になりたいという気持ちがより一層強くなりました。

最後になりましたが、この2年間に滝川と本学で出会ったすべての皆様に改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。（幼児・児童教育学科 児童教育コース2年／伊藤洋志）

春から北海道の小学校に勤務
念願の教師に意欲

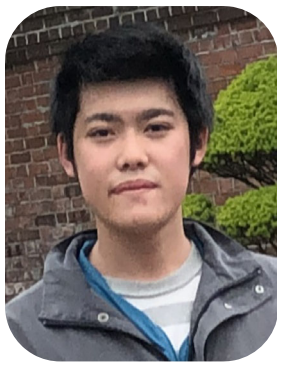
高校生の時、國學院大學北海道短期大学部のオープンスクールに参加しました。気になっていた児童教育コースを一人で見学していると、講義を行っている先生や大学生の先輩方が話かけてくださり、とてもあたたかいコースだと実感しました。また、小学校教諭二種免許を2年間で取得することができることを知り、魅力を感じました。

私は元々緊張しやすいため、人前で発表することがあまり得意ではありませんでした。しかし、模擬授業や発表をする機会をたくさん経験するにつれ、教壇に立ってもあまり緊張することがなくなりました。2年生の8月には、母校の小学校で教育実習を体験しました。この教育実習の中では自分の得意な絵や作り物を生かすこともできました。

また、私はボランティアに力を入れてきました。児童教育コース特有の小学校放課後学習ボランティアで勉強を教えたり、宿泊学習ボランティアで子どもたちと一緒に生活しながら学んだり、貴重な経験になりました。

春からは念願の教師として北海道に採用され、小学校に勤務することになります。期待と不安でいっぱいですが、子どもたちのために頑張ります。この2年間に出会った皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。（幼児・児童教育学科 児童教育コース2年／中島未貴）

雄大な北海道で充実した生活
多くの経験を糧に



私は、北海道での2年間の生活を終えて、いよいよ卒業を迎えることができました。

大学受験を終え、滝川に住み始めた最初の頃は、慣れない環境の中で悩み、勉強面で四苦八苦したことも多くありました。しかし、私がこれまで体験したことのない広い大自然の中で、仲の良い友人を多く作ることや、様々なことに挑戦することができたおかげで、自分自身を成長させることとなり、今では本当に充実したが学生生活を過ごすことが出来たと思っています。

特に短大では、英語や集中講義、ゼミなどの授業を通して基礎力を身に付け、加えて資格も取得することができたので、勉強面でもとても充実したと感じています。

また、いま思い返してみると、短大で体験したことは新鮮で、言葉では語りつくせないくらい印象に残っていることも多くあります。例えば、バイクの免許を取得し、道内を一周したことや、卒業旅行に友達と函館に行ったことも良き思い出で、私のかけがえのない経験を積み重ねることとなりました。

このように、短大での生活は、今まで自分が生きてきた過去とは違う体験ができる絶好の機会となりました。

私は、このような北海道での多くの学びを今後の大学生活に活かせると信じて、國學院大學に編入していきたいと考えます。（総合教養学科2年／篠原綾）

4月から社会人としてスタート
保育士の仕事に誇り

私は卒業前にやってみたいことがたくさんありました。私が今まで一度もやったことがないことに挑戦することや、様々なことに努力してみることです。また、4月からは社会人になるため、社会人になるためにはどういった事が必要なのかを考えました。

就職先は、実家から離れており、慣れない土地で働くため、環境の変化に対応できるのか、人間関係はうまくいくのか、仕事を自分の思い描いている通りにできるのか不安と心配でいっぱいです。その不安や心配事を周りの人に話すと、応援をしてくれる人がたくさんいました。

3月2日からは、まずは臨時職員として1カ月間働き、4月からは正職員となります。まずこの1カ月間で環境や先生方、保護者の方や子どもたちと慣れることができたらいいなと思います。

卒業式には母の思い出の袴を着る予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となり、とても残念です。ただ、大学に通わせてくれた父と母に感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業後は、私が小さい頃から夢見ていた公務員という職種に就くこと、また保育士という仕事はとてもやりがいがあり、素敵な仕事であるということに自信と誇りを持ち、これからの人生を邁進していきます。（幼児・児童教育学科 幼児保育コース2年／福永彩乃）

4月から日高町の保育園に勤務
信頼される保育士に

私は、この4月から北海道日高町の保育園に勤めることになりました。まだ配属先は決まっていませんが、日高町には門別わかば保育所、町立日高保育所、富川二葉保育所、厚賀すずらん保育所の4つの園があります。

日高町に就職することを決めた理由は、祖父母の家が日高町にあり、自然豊かな環境で大好きな祖父母と一緒に暮らしたいと思ったことと、大学のキャリアセンターの職員の方に受験を勧めてもらったからです。私が保育所の先生を目指したのは、小さい頃通っていた保育所の先生のように、子どもたちや保護者の方々から信頼される先生になりたいと思ったからです。

保育園では、日高町の豊かな自然環境の中でたくさん子どもたちと遊び、短大や保育園・幼稚園実習で学んできたことを実践で活かしつつ、いろいろなことを学んでいきたいです。

私は少し引っ込み思案な性格なので、積極的に保育という仕事に取り組むことと、楽しみながら保育をしていくことを毎日の目標にして、園児が毎日気持ちよく通園してくれるような保育をしていきたいです。また、保護者の方々との信頼関係を築いていき、安心して子どもを預けてもらえるように努力します。

また私は、ピアノが苦手なので上手に弾けるよう努力することと、日高町ならではの自然のものを使って物作りの楽しさをたくさん子どもたちに伝えていきたいと思います。

2年間の短大生活で学んできたことを活かし、子どもたちと一緒に自分も成長していきたいです。（幼児・児童教育学科 幼児保育コース2年／筒井文菜）

支えてくれた周りの方々に感謝
編入後も全力で勉強

今、この2年間を振り返った時、「あっという間ではなかった」と実感しています。なぜなら、私は國學院高校出身ですが、高校3年の時、他大学の受験のために内部推薦の権利を一度辞退しているからです。

北海道短期大学部入学当初は、慣れない滝川での一人暮らしや希望の進路ではなかったことなどから、立ち止まることもありました。そんな時に私を支えてくれたのは、周りの存在でした。また私の「選択」を応援してくれた家族、編入学を目指す仲間たち、そして手厚いサポートをしてくださった先生方のおかげで、充実した学生生活を送ることができました。

中でも教職課程では思い出のある母校での教育実習を体験し、生徒との関わりの中で、どうすれば自分の考えが伝わるのか、生徒は何を伝えようとしているのかを常に考えるよう努力でき、自信がつきました。また、北海道から佐野先生に来て頂き、私の実習の授業を見て温かい言葉を頂きました。

短期大学部で培った2年間の経験や学びを糧にして、國學院大學編入学後も全力を尽くして勉学に励んでいきます。（総合教養学科2年／大塚萌花）